女性の権利プログラム(APC)、ヘイトをハックする

APC(進歩的コミュニケーション協会)のプロジェクト、the Women's RightsProgrammeが発行しているオンラインジャーナルの6月最新号がヘイトスピーチを特集しています。今回は、この特集記事を中心に紹介します。以下はこの特集にあたっての巻頭言です。

「この10年間、少数派とみなされるグループや、政治的・社会的・文化的に標的とされる人々に対する、宗教に基づくヘイトスピーチがオンラインで増加しているのを目の当たりにしてきました。宗教に基づくヘイトスピーチでは、マイノリティとみなされる宗教だけでなく、自らをマジョリティとみなす宗教の価値観や規範に「違反する」とみなされる他のアイデンティティも、ヘイトスピーチの対象となります。そのヘイトスピーチは、多くの場合、暴力や破壊をもたらすことさえあります。

しかし、宗教に基づくヘイトスピーチは新しい現象なのでしょうか。いいえ、インターネットが登場する以前から起こっています。それは時間、場所、行為者を経て長い軌跡をたどります。これまでもありましたが、ある時期になるとエスカレートするのです。

今この瞬間も、政府やテクノロジー企業はヘイトスピーチに対処せず、むしろヘイトスピーチがもたらす暴言、暴力、注目から政治的、経済的に利益を得ているのです。このような状況の中で、人々、特に女性やLGBTIQ+の人々は、自らヘイトをハッキングするための対応や方法を進化させてきました。今回のGenderIT.orgでは、愛、ユーモア、思いやり、反撃、沈黙などを通して、私たちがどのようにヘイトをハックしているのか、ポッドキャスト、分析、イラストなど様々な形で探求しています。」

女性の権利プログラム（APC）、ヘイトをハックする

https://www.genderit.org/

https://erotics.apc.org/

https://feministinternet.org/en

feminist internet research network

https://firn.genderit.org/

APCはここにあるように、複数のジェンダー関連のプロジェクトを展開している。今回は、これらのなかから主に、ヘイトスピーチやジェンダー関連の暴力に関する記事などを紹介する。

https://takebackthetech.net/

女性の権利プログラム(APC)、ヘイトをハックする

APC関連文書

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/215

ハッキング・ヘイト：抵抗と運動の集団的ナラティブの構築

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/202

デジタル空間における商品としての女性嫌悪

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/203

私たちは立ち上がり、癒し、抵抗する

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/204

ヘイトとヘイトスピーチを理解する：女性やその他の抑圧されたグループにとって、ヘイトは何を意味するのか？

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/205

女性の権利プログラム(APC)、ヘイトをハックする

APC関連文書(続)

6月17、18日、APC、「ヘイトスピーチと闘う国際デー」キャンペーンを実施

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/199

(ソーシャルメディアキット)オンラインでのヘイトスピーチに挑む

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/198

アジアにおけるオンラインでの宗教と表現の自由の侵害とヘイトスピーチに挑む

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/213

抵抗のインフラとしてのコミュニティ・ネットワーク：テクノロジー作りとコネクティビティにおける女性とコミュニティのニーズの再中心化

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/212

HEĐONE E-ƵINE: 快楽の充填

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/211

ブラックアフリカン・ウーマンは、デジタル・フェミニズムによって、最終的にシステムをハックすることができるのか？

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/210

女性の権利プログラム(APC)、ヘイトをハックする

APC関連文書(続)

塔について

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/208

抵抗のインフラ：世界危機をハックするコミュニティ・ネットワーク

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/207

インターネットにおけるフェミニスト原則

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/113

ヒジャブを着用したイスラム教徒の女性学生を標的とし、排除することに対するフェミニスト、民主主義的な組織および個人による声明

https://www.jca.apc.org/jca-net/ja/node/175

女性の権利プログラム(APC)、ヘイトをハックする

ハッキング・ヘイト：抵抗と運動の集団的ナラティブの構築

2022年6月17日

ディタ・カトゥラーニ（Ðhyta Caturani）

インドネシアの人権と女性の権利の活動家

EngageMediaでプロジェクト・コーディネータ

- ソーシャルメディアは、女性や社会から疎外されたグループの人々が生息し、自己表現、組織化、物語の促進、そして世界中の運動の動員のために利用する空間となっている。

- 他方で、ネットは、平等、民主的で、一人ひとりが自由かつ安全に異論を唱えることも含めて自己表現できる、新しいオルタナティブな場所にはなっていない。
- インターネットは、さまざまな暴力の巣窟になっている。そして、デジタル技術の働きにより、こうした暴力はしばしば助長され、保護され、広く浸透し、最後には常態化する。
- この10年間で、少数派とみなされるグループや、政治的、社会的、文化的に標的とされている人々に対する、宗教に基づくヘイトスピーチがオンラインで増加している。
- マイノリティとみなされる宗教だけでなく、自らをマジョリティとみなす宗教の価値観や規範に「違反する」とみなされる他のアイデンティティも、ヘイトスピーチのターゲットにされる。

女性の権利プログラム (APC)、ヘイトをハックする

ハッキング・ヘイト：抵抗と運動の集団的ナラティブの構築(続)

ヘイトスピーチとは、

「宗教や政治的信条、人種、カースト、ジェンダー、セクシュアリティ、民族的背景などの社会的アイデンティティに基づいて人々を否定し、貶め、軽蔑するように計算されたものであり、しばしば力や感情を込めて伝えられ、その相手が「他者」として構築されており、その背後に組織化や憎悪が長い歴史として存在しているもの」(V. Geetha 博士)

- 宗教に基づくヘイトスピーチは、権力を持つ人々や権力者にとって、権力を強化し、他の政治的課題を達成するための手段であり、これはしばしば普通の人々に影響を与え、さらにその人々や社会の中で内面化され、常態化される。
- 非暴力的なメッセージのように見えるパッケージであったとしても、これまで見てきたように暴力を誘発することが多くなっている。
- 憎悪やヘイトスピーチの広がりは、政治的、文化的、宗教的な嘘、誤報、偽情報に基づくプロパガンダから始まることが多い。
- 宗教に基づくヘイトスピーチの文脈では、狭い解釈、あるいは意図的な誤った解釈の教えに由来する道徳に基づいている。→ 人々やコミュニティによって異なる意味を持つ可能性がある。
- それぞれの場所の政治的、社会的、文化的、宗教的状況に応じて極めて文脈依存的であり、その表現方法もまた様々。そのため、抑圧されたマイノリティの間でも、それを受け取った人々への影響は異なる。
- インターネットは宗教に基づくヘイトスピーチの原因ではないが、間違いなくこれを促進し悪化させている。

女性の権利プログラム(APC)、ヘイトをハックする

ハッキング・ヘイト：抵抗と運動の集団的ナラティブの構築(続)

- フェミニストとして私たちは、特に抑圧的な国において、自己表現や反対意見を表明する際に人々を守るための重要な戦略として匿名性を提唱するが、これがヘイトスピーチを広めるツールとして、また当局が加害者に対処しないための口実として使われてきたことも認めざるを得ない。
- オンライン商業プラットフォームがヘイトスピーチの便利な温床になっているのを目の当たりにしている一方で、私たちはさらに彼らについて検証する必要がある。
- すべてのオンライン商業プラットフォームを支えるテック企業は、ヘイトスピーチと闘うという公言や主張にもかかわらず、そのアルゴリズムという武器で、意図的にヘイトスピーチの増幅器となる空間を提供してきた。それは、彼らが直接・間接的にそこから利潤を得ているからだ。
  - ヘイトスピーチの投稿は、広告による利益を生み出すために利用できるエンゲージメント数を多く集め、ヘイトスピーチのようなコンテンツに対する私たちの感情や反応、それによって引き起こされるトラウマを収益化することができる。
- ヘイトとヘイトスピーチの影響は現実的で、非常に深刻なものだ。どこの国でも、抑圧されたグループは自分たちの手で問題を解決しなければならない。ヘイトスピーチの影響に対処し、対応策を練り、自分たちの物語や運動を構築しなければならない。

女性の権利プログラム（APC）、ヘイトをハックする

デジタル空間における商品としての女性嫌悪

2022年3月7日

セリーン・リム　Serene Lim

フェミニスト活動家、作家、弁護士。クアラルンプール在住。

デジタル空間には、シス女性［性自認と生物学的性が一致している女性］、トランス・ピープル、クィア、ジェンダーに適合しない人々に対するジェンダーに基づく暴力の拡散を助長する側面もある。

- 暴力は、SMS、Zoom、Telegram、Facebook、そしてTik TokやClubhouseといった新しく登場したプラットフォームなど、さまざまなプラットフォームで顕在化

- 市場の自由放任主義的アプローチ：政府やメディアコングロマリットといった従来の組織が保持していた権力を崩壊させた。
- FacebookやGoogleのような多国籍デジタル企業や、アジアのGrabのようなスーパーアプリは、銀行、広告、家庭、ニュース、自動車など、さまざまな分野でその力をますます強めてきている。→ Shoshana Zuboffが「監視資本主義」と呼ぶものを出現させた。これは「人間の経験のあらゆる側面を行動データに変換するための無料の原料であるとして主張し、人間の将来の行動を予測し、人間を自動化することを究極の目的とするシステム」である。

女性の権利プログラム（APC）、ヘイトをハックする

デジタル空間における商品としての女性嫌悪（続）

- 人間の体験やつながりが商業的な目的のための手段となっている。

  ↓

- Facebook のアルゴリズムは、それがかわいい子犬のミームであろうとトランスコミュニティに対するヘイトスピーチであろうと、喜びや憤りといった強い反応を引き起こすコンテンツを強調するように設計されている。

  ↓

- これらのアルゴリズムは、情報、コンテンツ、ニュースがどのように再構成、再構築、埋没、増幅されるかを決定する。
- 階級、ジェンダー、性的指向、エスニシティー、宗教、身体的能力などが、デジタル空間にアクセスする能力や、これらの空間における関わりの質をいまだに規定している [5]。このようなスペースにおけるコンテンツ世代に対する自由放任のアプローチは、常に、企業が、差別をなくし表現の自由に対する真に平等な権利のための安全なスペースを確保するための責任や義務を負わないということを意味している。

「私たちの好き嫌いは常に追跡、分析、予測されているが、これらのデータは私たちの生活や社会の複雑さや流動性を完全に表しているわけではない。これらのデータは、そこにある行動データを掘り起こすために設計されており、決して現状や規範に挑戦するためのものではない。私たちは強引に枠にはめ込まれ、機械が予測する私たちの行動に適合する内容を提示される。その結果、女性差別と、何世紀にもわたって資本主義市場に貢献してきたふしだらな辱めの文化が強化され、正当化されることになる。それは、ジェンダー平等とすべての人のための自由への平等なアクセスを犠牲にして行われている。企業が自社のアルゴリズムや利潤のモデルを見直す経済的インセンティブは、相変わらずほとんどない。」

女性の権利プログラム(APC)、ヘイトをハックする

デジタル空間における商品としての女性嫌悪(続)

- オンラインにおけるジェンダーに基づ く暴力に対抗するためのソーシャルメディア企業の既存のメカニズムは、特に南半球の女性やクィアの人々にとっては、まだ十分とはいえない。
- しかし、プラットフォームに抵抗したり、デジタル空間から遠ざかったりすることは、もはや私たちの多くにとって実行可能な選択肢ではない。

「オンラインのジェンダーに基づく暴力と闘うための私たちの努力は、私たちは操り人形ではなく、操り人形師を追い詰める必要があるという認識から始まりる。注目とデータの商品化という問題に取り組まない限り、そして取り組むまでは、いくら技術的な修正を行っても核心的な問題には対処できないだろう。」

「最も重要な議論は、 Facebook や Google 、そしてこれら巨大なデジタル企業すべてを排除し、現在のデータ駆動型の利潤モデルを変革することができるのかどうかということです。この問いに対する私の答えは、フェミニスト・インターネットを想像することから始めるということだ。」

" 本当に包括的で多様で平等な世界のために、自分自身と自分のコミュニティのためにどのようなことを構想できるだろうか? "

女性の権利プログラム (APC)、ヘイトをハックする

私たちは立ち上がり、癒し、抵抗する

表現の自由、特に性自認と性的指向に関する自由は、いまだに複数のグループによって拒否されている。

Raiz Rizqy and Yulia Đwi Andriyanti

2022年3月22日

多様な民族と文化を持つインドネシアは、独立以前からジェンダーの多様性を謳歌してきた。このことは、ブギス族 the Bugis（南スラウェシ州）の伝統に5つの性別が存在する：マクンライ Makunrai （女性）、オロアン Oroane（男性）、カラバイ Calabai（女性の魂を持つ男性）、カラライ Calalai（男性の魂を持つ女性）、ビス Bissu(古代ブギスの宗教儀式のリーダー）

- 表現の自由、特に性自認と性的指向に関する自由は、いまだに複数のグループによって拒否されている。
- 1993年まではレズビアン、ゲイ、バイセクシャルは精神障害に分類されていた。それ以後はこの分類は廃止
- レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、インターセックス、クィア（LGBTIQ）の人々は市民としての権利を求めての闘いは続く。
- トランスジェンダーやクィアの人々の存在は、「普通の」人間としての生活秩序を脅かすものと考えられている。家父長制文化やヘテロ規範的な生き方の影響により、トランスやクィアであると認識する人々は、社会システムから、そして社会システムによって排除される。
- インドネシアの文化や伝統の中にジェンダーの多様性が組み込まれてきたのに、その多様性が「西洋文化」からもたらされるという逆転現象が起っている。

女性の権利プログラム(APC)、ヘイトをハックする

私たちは立ち上がり、癒し、抵抗する(続)

同性婚やLGBTについて

- 宗教大臣：宗教家が多いインドネシアでは同性婚は受け入れられない。
- MUI（ Majelis Ulama Indonesia または Islamic Ulama Council ）：同性婚は1974年1月1日付の婚姻法に違反し、宗教上も禁止されているため不可能である。
- 防衛大臣：「LGBTは代理戦争の一環」と宣言。
- 研究・テクノロジー担当大臣：LGBTをキャンパスから追放。インドネシアの様々な大学が、様々な公式宣言や反LGBTをテーマにしたセミナーを通じて、LGBTを拒絶。
- 行政改革担当大臣：LGBTが国家公務員になることは適切ではない、LGBTに比べれば一夫多妻制の男性は許容され、自然なことと発言。

など大臣、議会、市長に至るまで、公職にある者たちが様々なメディアで継続的にヘイトスピーチを発信。

女性の権利プログラム(APC)、ヘイトをハックする

私たちは立ち上がり、癒し、抵抗する(続)

電子メディアやソーシャルメディアによるヘイトの加速化。

- LGBTに対する拒否感を表明し、LGBTコミュニティに関する情報へのアクセスを制限。
- インドネシア放送委員会とインドネシア児童保護委員会は、子どもや若者が「LGBTの行動」を真似たり正当化したりしないよう、コンテンツブロッキングを通じてテレビやラジオでLGBTに関するプロモーションとみなされるものを禁止。
- 国連や外国のドナー機関がLGBTに関するキャンペーンやプロモーションを奨励したとして、資金援助を停止。
- インターネット上でLGBTの運動を促進するような情報を公開することも阻止。通信情報省は「インターネット上のLGBTプロパガンダ」の拡散を防ぐため、LGBTをコンテンツとする様々なアプリケーションやサイトを定期的にブロック。
- ジョグジャカルタのトランスジェンダー・イスラム寄宿学校の暴力的な強制閉鎖。

多くのトランスジェンダーの人たちは、自分の表現を社会から「普通」と認められるものに切り替えることを余儀なくされる。例えば、多くのトランス女性が髪を短く切り、"男性用 "の服を着る。トランス男性も同じように、ヒジャブを被り、「女性用」の服を着るようになった。

女性の権利プログラム(APC)、ヘイトをハックする

私たちは立ち上がり、癒し、抵抗する(続)

抵抗と反撃の試み

Qbukatabu[https://qbukatabu.org/]が誕生：フェミニストやクィアの視点を持った情報やサービスへのアクセスは、オンライン空間でも可能であるべきだ。

「闘う人々の旅に潜り込む」と題した Archive of Emotions Collection batch 2 において、LBT 団体にアーカイブを共有してもらい、デジタル化して短い記事として掲載することを提案。

- 国家が LGBT コミュニティに対してどのような暴力を振るっているかを示す様々な経験を文書化する。
- ジェンダーやセクシュアル・アイデンティティのために経験したヘイトスピーチの影響から癒されるためのメディアを模索。

女性の権利プログラム (APC)、ヘイトをハックする

私たちは立ち上がり、癒し、抵抗する (続)

エモーションアーカイブス コレクション #2 抵抗する者の旅路に迫る

by ユリア・ドウィ・アンドリヤンティ

2019 年 3 月 11 日 (木

不正を強化し、生活を人間的価値から遠ざけるさまざまな権力構造に対する闘争を開始し、動員し、その持続性を維持することに専念する人々の名称はたくさんあります。活動家、ソーシャルワーカー、被害者支援者、暴力の生存者、ピアファシリテーター、コミュニティ動員者、人権侵害の証人や内部告発者、アーティスト、思想家、教師、作家、政策立案者などなどです。

平等な世界というビジョンを実現する上で、彼らは自分が誰であるかを理由にした脅迫、脅威、攻撃、迫害を免れることはできません。多くの場合、女性やトランスジェンダーの人々は、その性自認を他者として位置づけるシステムのために、暴力に対してより大きな脆弱性を経験します。また、彼らは性的権利の実現を目指した活動をしているため、複数の脆弱性を経験しています。それに対処するために、彼らは日々どのような経験をしているのでしょうか。自分自身と社会のために権利を求めて戦う彼らの闘いはどのようなものでしょうか？彼らは何を感じているのか？その気持ちをどのように伝えているのか。

歌は気持ちを伝えるひとつの手段です。例えば、ブキドゥリ刑務所の政治犯への祈りを歌った「サラーム・ハラパン」。ゲルワニのリーダー、ズバイダ・ヌンググジク AR さんとムルティニンシさんの歌は、長い間封印されていた記憶を呼び起こしながら、私たちを口ずさむように誘ってくれます。圧政の中にあっても、希望を育むことの大切さについて。

「昇る朝日とともに。赤く咲き、ジャスミンを咲かせ

友よ、よくぞ来てくれた、元気でいてくれ。

海の中の珊瑚の山のように、波の中でも強くあれ

ラジュラジュ、私たちの船ラジュラジュ

私たちは必ず夢の岸辺にたどり着く」

インドネシアで性の権利を求めて闘う女性やトランスジェンダーの人たちも同様です。 Qbukatabu は、彼らの持つ日記、詩、歌、写真などを通して、彼らの気持ちをアーカイブしていきたいと考えています。そして、タブマニアのためにそれらを共有します。より良い人生への希望を育むことを止めないために。そしてこれは、ヘテロ・パトリアルクの権力構造の中で、彼らの日々の旅の一部である感情を認識し、認め、認めるということでもあるのです。

https://qbukatabu.org/2019/03/11/koleksi-arsip-emosi-2-menyelami-perjalanan-mereka-yang-melawan/

女性の権利プログラム（APC）、ヘイトをハックする

私たちは立ち上がり、癒し、抵抗する（続）

自己否定、脅迫、暴力、汚名、ヘイトスピーチ、差別、処罰、犯罪化は、インドネシアにおいて多様な性的指向、性自認、性別表現を持つ人々が今もなお日常的に直面している問題です。社会や国家は、いまだに性についてオープンに議論することを恐れ、国の規範や価値観の名の下に様々な不正を許している。

オードレ・ロード（ 1934–1992 ）は、バルバドスとカリアクーからの移民の子孫で、黒人女性、レズビアンであり、米国で人種差別のあった時代に生き、人種差別のみならず、性差別や同性愛嫌悪などの不正義に対する考えを詩で表現している。 1934 年に作られた詩の中に、その抵抗感を表現したものがある。

（「今」と題された詩の翻訳）。

女性の力

それは

ブラックパワー

それは

ヒューマンパワー

それは

常に感じていること

心臓の鼓動

私の目が開くとき

私の手が動くとき

私の口が話すとき

これが私という人間だ

ARE YOU Ready

==================
改めて、ホモフォビア、バイフォビア、トランスフォビアに反対する国際デーを祝い、記念して、タブーマニアより(ED)